令和３年度職業能力開発論文コンクール「入賞者の声」

令和３年度職業能力開発論文コンクール特別賞（独立行政法人　高齢・障害・求職者雇用支援機構　理事長賞）に入賞された上西　能弘氏が、コンクール事務局の質問に回答してくださいました。

入賞者の声：

Ｑ１．普段はどのような業務に携わられていらっしゃいますか。

高次脳機能障害・発達障害・精神障害のある方を対象とした訓練コース“職域開発科”にて、訓練生への職業訓練を担当しております。また、他の職業能力開発校等に対して、障害者職業訓練に関する効果的な職業訓練の内容や、指導技法等を提供する業務（以下、「指導技法普及」とする）を担当しております。

Ｑ２．今回の論文はどう業務に活用して貰いたい（どういった方に読んでいただきたい）ですか。

指導技法普及を担当して間もない指導員や、今後指導技法普及を担当する指導員に読んでいただけますと幸いです。また職業訓練指導員の育成に携わる方々にとって、本論文が何かしらの参考になれば幸いです。

Ｑ３．今回の論文を作成する際に気を付けたことはございますか。

今回は職業能力開発における指導技法普及をテーマに執筆致しましたが、私自身が直接携わった内容だけではなく、業務全体について体系的な整理を行うことを心がけました。

Ｑ４．今後の応募を検討されている方へのメッセージはございますか。

論文執筆を行う目的は大きく二つあると思います。一つ目は対外的に、個人や組織が取り組んだ業務の成果を周知し、その内容に関心を持っていただく機会が得られることです。二つ目は、論文を執筆する過程で、これまでの得た知識や経験を整理し、論拠となる参考文献や資料などに目を通すことにより、業務に対する自身の理解を深められることです。

論文コンクールは、自分の考えを多くの方々と共有することができ、第三者からのフィードバックをいただける、大変貴重な機会と思います。

Ｑ５．今回の論文を執筆された心境やきっかけをお聞かせください。

執筆に至ったきっかけですが、まずは、自分自身の業務の理解を深めておきたかったということです。昨年度までの３年間、国立職業リハビリテーションセンターにて、職業訓練部　導入訓練・技法普及課というところに所属しておりました。近年、指導技法普及に対するニーズは障害種別に特化した内容だけでなく、個々の訓練生の特性に応じた訓練指導のノウハウ提供が求められています。それに伴い指導技法普及の実施方法や内容も年々変化しており、これまでの業務で得た知識や経験を一度自分の中で整理しておきたいと考えました。

つぎに、指導技法普及に関する周知です。これまでの取り組みが論文を通して共有さ

れることにより、指導技法普及について興味や関心を持っていただければ幸いです。

　そして、指導技法普及の軌跡を論文という形で示すことにより、これまで関わった方々への敬意と感謝の意を表したかったということです。3 年前に指導技法普及の専任として業務を始めてから、上司、先輩方から、沢山の事を教わりました。業務の流れから指導技法普及に必要な考え方に至るまで、ここで学んだことが、今現在の業務に至るまで私の主軸となっています。また、指導技法普及で関わった全国各地の職業能力開発施設、就労支援機関、委託訓練実施機関、都道府県の能力開発主管課の皆様から、職業訓練についての実際を学びました。今回、このように論文を書くことができたのは、偏にそういった皆様からのご支援やご理解、ご協力があったからこそです。この場をお借りして感謝申し上げます。

ご回答いただきどうもありがとうございました。

令和３年度職業能力開発論文コンクール事務局
基盤整備センター